

6 - 1 西南日本内陸部の地震活動 (1994 年 1 月 ~ 6 月)

Seismic Activity in the Inner Zone of Southwest Japan (January-June, 1994)

京都大学防災研究所
地震予知研究センター

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第 1 図 は 1994 年 1 月から 6 月までの 1 年間の西南日本内陸部の地震活動状況を示す。
以下各地域の顕著な地震活動は次の通りである。

1 . 中部地方北西部の地震活動

第 2 図 は飛騨地方北部および能登半島・富山湾周辺を含む北陸地方北部の地震活動状況を示す。前年の 2 月 7 日に能登半島沖で発生した M6.4 の地震の余震活動は依然として継続しているが M3.5 以上の余震は 2 月 9 日の M3.9, 4 月 4 日の M3.5, 6 月 7 日の M3.7, M4.2, M3.6 および 6 月 19 日の M3.8 の 6 個である。群発活動以外で観測された M3.5 以上の地震は (2) 1 月 15 日に富山県婦負郡山田で発生した M3.5 の地震だけで、この期間地震活動は例年に比べて静穏だといえる。群発活動で M3.5 以上の地震が観測されたのは飛騨山脈沿いで (1) 1 月 1 日の M4.6, (3) 1 月 15 日の M3.7 の 2 個, (5) 長野県西部地震余震域で 2 月 26 日の M3.8, 3 月 25 日の M3.7, 5 月 7 日の M3.5, 6 月 4 日の M3.5, 6 月 15 日の M3.5 の 5 個, それと岐阜県萩原町南西の 6 月 23 日の M3.6 だけである。

第 3 図 に (1) および (3) の地震のメカニズム解を示す。

第 4 図 は北陸地方南部の地震活動状況を示す。この地域は前年まで地震活動が静穏であったが、1994 年にはいって、前年 1 年で 8 個しか観測されなかった M3 以上の地震が、半年間で 13 個と増加傾向にある。(1) 1 月 15 日に富山県南西部で M3.5 の地震が発生、2 個の余震が観測された。(2) 3 月 6 日には福井県小浜湾で M3.5 の地震が発生し余震 8 個が観測された。(3) 3 月 18 日に岐阜県山県郡美山で M3.7, (4) 4 月 6 日に滋賀県米原で M3.7 の地震が発生している。(5) 4 月 11 日に岐阜県大垣で M4.5 の地震が発生している。5 月に入って地震活動が活発化し (6) 7 日には滋賀県高島郡朽木村で M3.5 の地震が発生 (7) 7 日には、岐阜県郡上郡白鳥で M3.0 の地震が発生した。(8) 5 月 22 日には若狭湾中央で、この期間の浅発地震で最大の M5.0 の地震を中心とする群発活動が観測された。(9) 5 月 28 日には滋賀県長浜市直下 37 km で M5.1, 翌 29 日に M3.5, 翌々 30 日には M3.8 の地震が発生している。(10) 5 月 29 日には岐阜県明方村で M3.2 の地震が観測された。

第 5 図 に (8) の M5.0 の地震および (9) の M3.5 の地震のメカニズム解を示す。

2 . 近畿地方中北部の地震活動

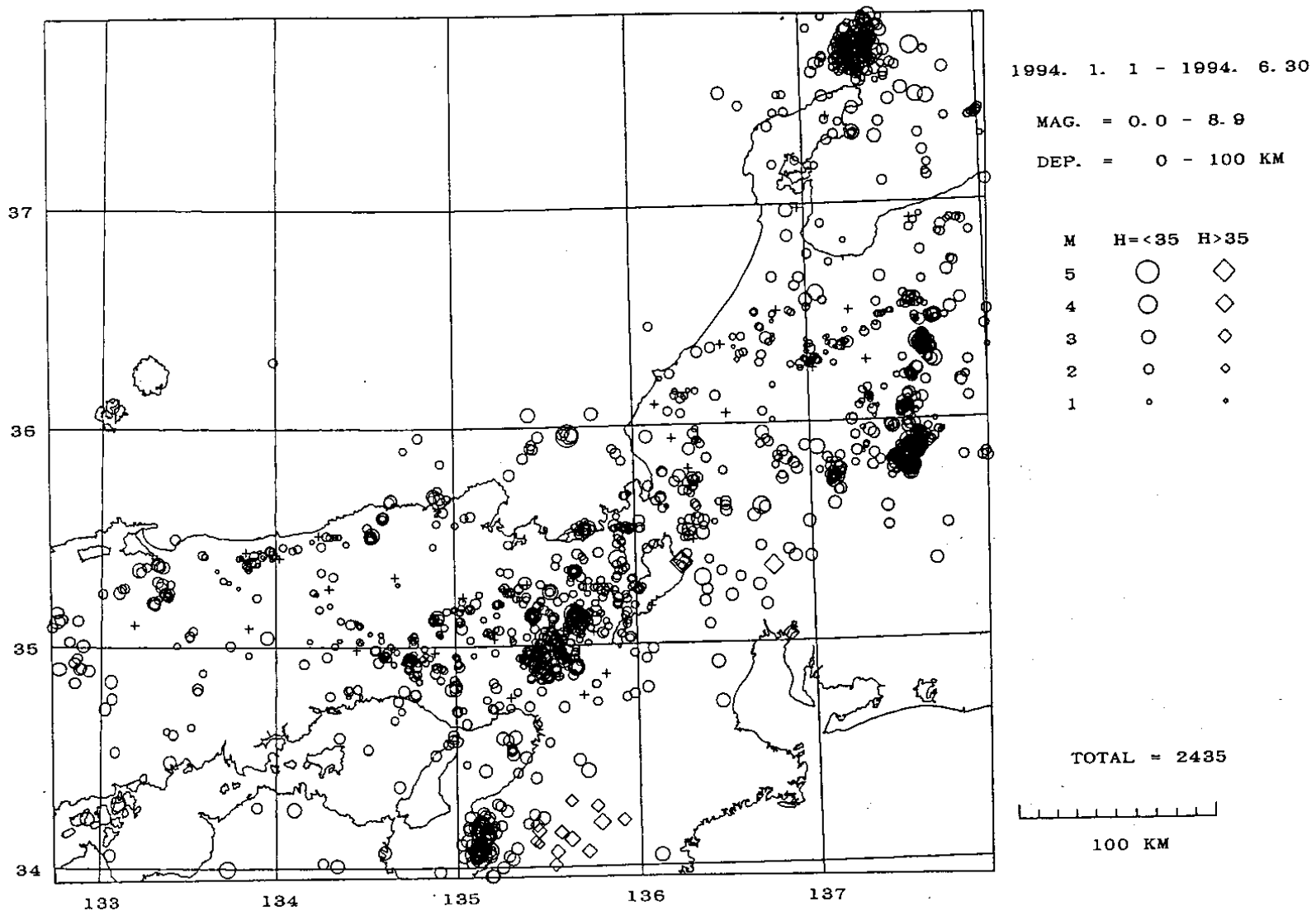
第 6 図 はこの期間中の近畿地方中北部の地震活動状況を示す。この期間は前年度よりは地震活動が活発化してきている。(1) 2 月 1 日には京都府美山で M3.1 の地震が発生。また (2) 2 月 9 日には京都府亀岡市で M3.3 の地震が発生している。(3) から (6) は中部地方北西部の地震活動で説明した通りである。(7) 6 月 15 日には兵庫県加美で M3.2 の地震が発生している。(8) 6 月 28 日にはこ

の期間最大のM4.8の地震が京都市西北で発生，同日にM3.1の余震が観測されている。

3．中国地方東部の地震活動

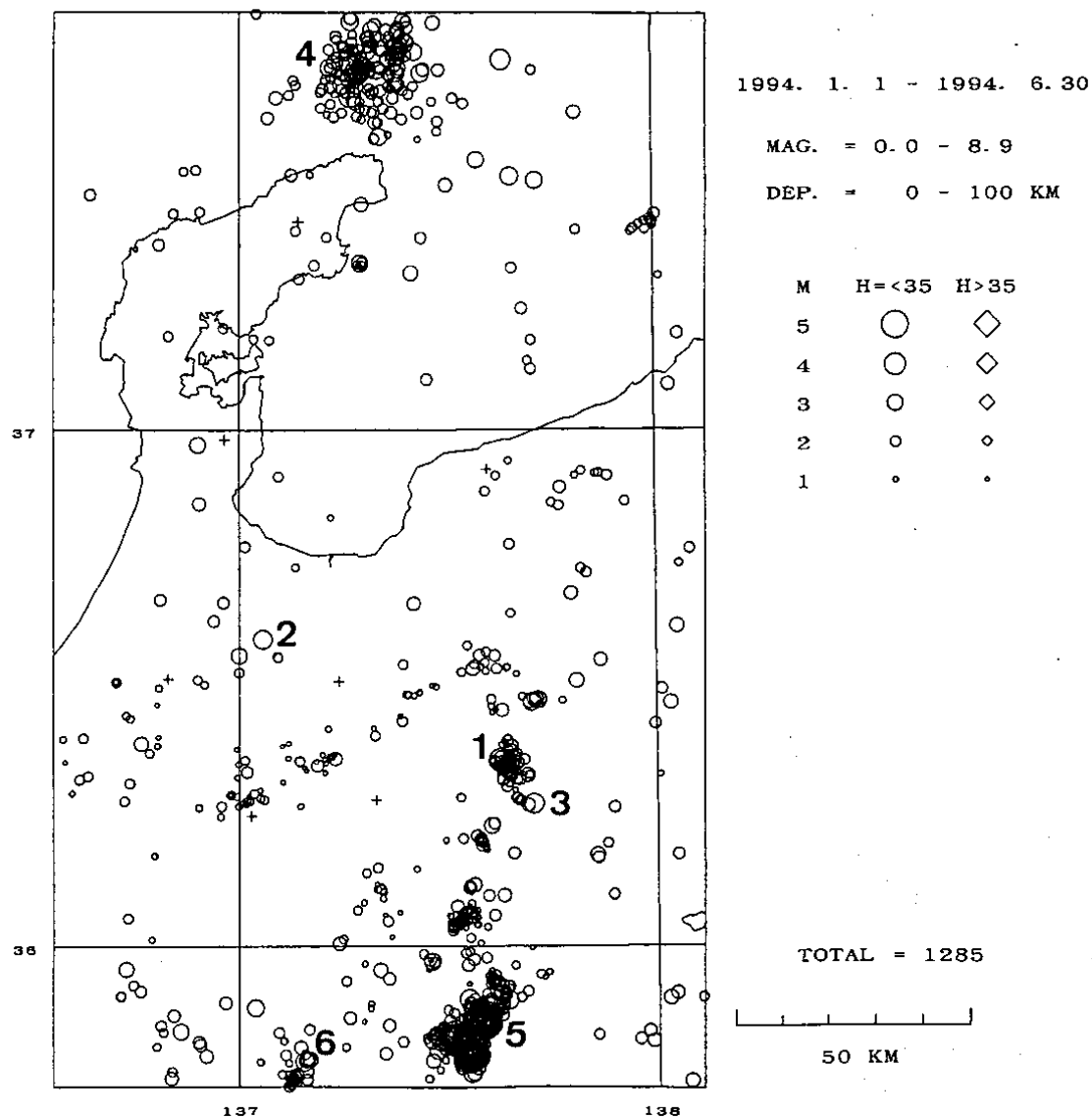
第7図はこの期間中の中国地方東部の地震活動を示す。この期間は昨年同様，全体的に活動は低く，1991年8月28日島根県東部地震の余震域，1989年および1900年の鳥取県西部地震の余震域では，余震活動が継続しているものの，M3.0以上の地震は(4)6月27日安来で発生したM3.2の地震ぐらいである。(1)3月13日には山崎断層沿いの福崎町でM3.0の地震が発生している。(2)5月9日には，前年にM4.8の地震を発生した兵庫県氷ノ山の北北西の湯村でこの期間最大のM3.5の地震が発生している。この地域は過去にもM3以上の地震が幾度か発生している場所である。(3)6月15日には兵庫県加美でM3.2の地震が発生している。

第8図に(2)および(3)の地震のメカニズム解を示す。



第1図 西南日本内陸部の地震活動 (1994年1月~6月)

Fig. 1 Seismicity in the inner zone of Southwest Japan, January-June, 1994.



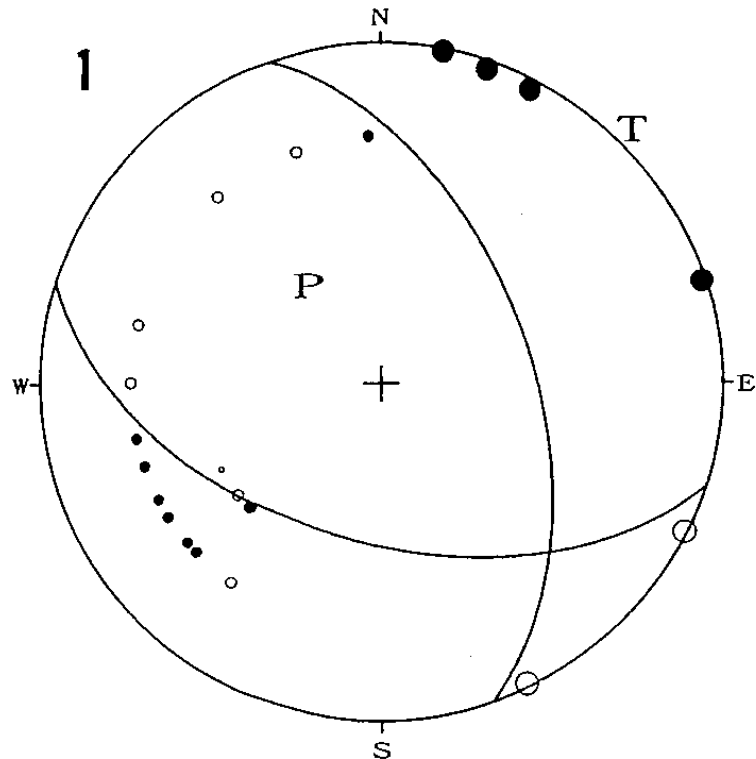
第2図 中部地方北西部の地震活動,(1) 飛騨地方北部および北陸地方北部(1994年1月~6月)

Fig. 2 Seismicity in the northwestern Chubu region, (1) northern Hida and northern Hokuriku region, during the period January-June, 1994.

1994 0101 0522 18. 18

36. 358 °N 137. 624 °E

H= . 6km M= 4. 6

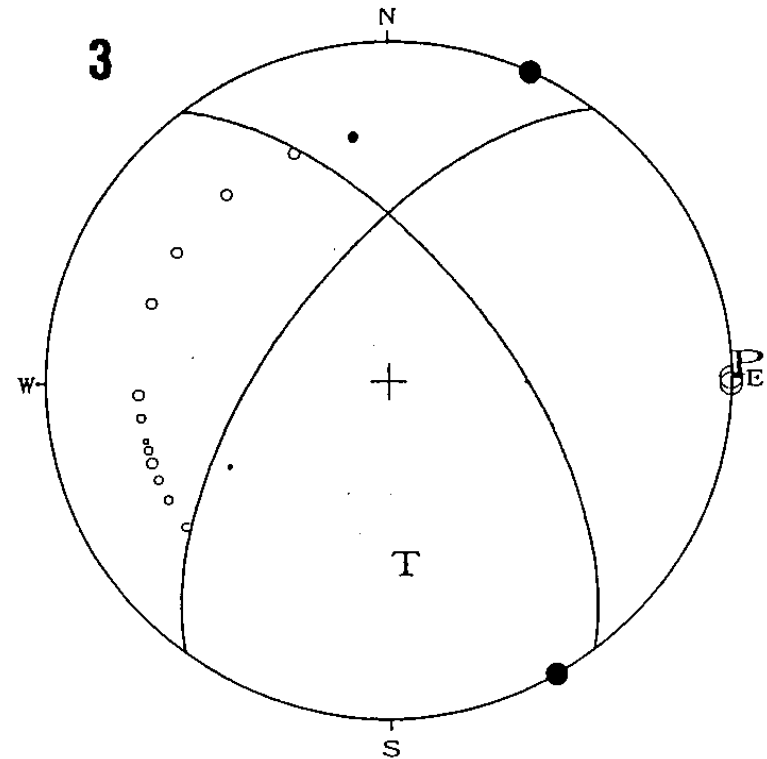


A(A, D, S)	341	53	309	P(A, D)	313	60
B(A, D, S)	107	51	230	T(A, D)	44	01
N= 22	Score= 93%		N(A, D)	135	30	

1994 0115 1629 38. 69

36. 274 °N 137. 702 °E

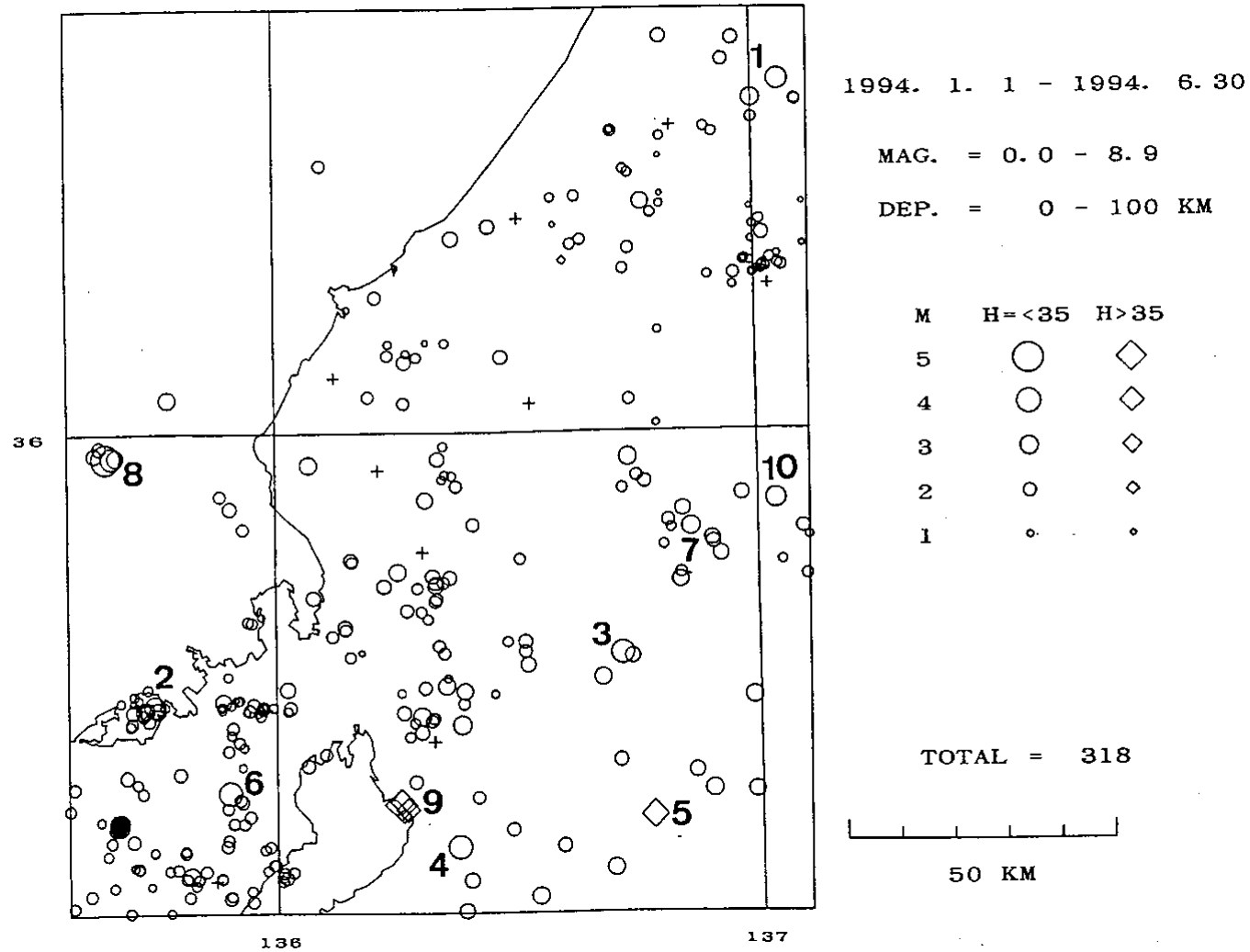
H= . 0km M= 3. 7



A(A, D, S)	323	62	32	P(A, D)	90	00
B(A, D, S)	217	62	148	T(A, D)	180	41
N= 18	Score=100%		N(A, D)	360	49	

第3図 第2図の1および3の地震のメカニズム解

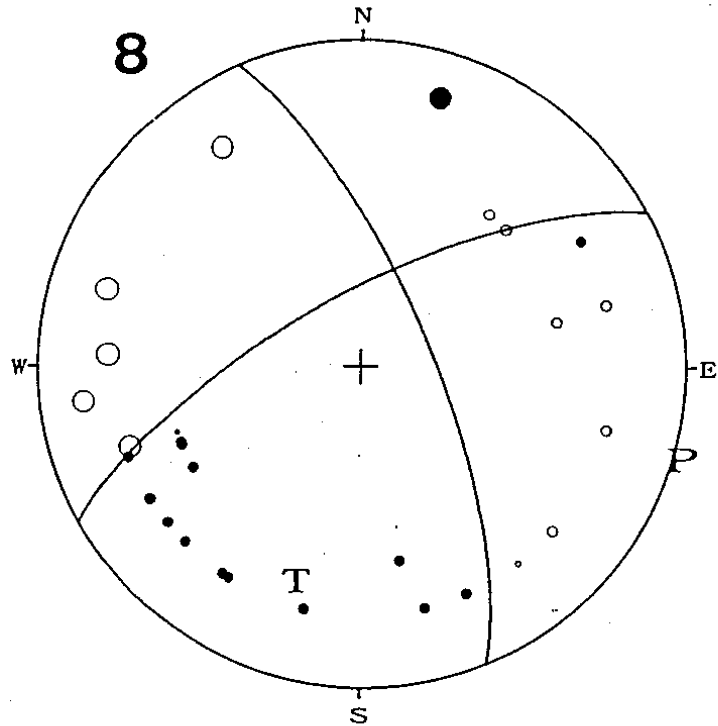
Fig. 3 Focal mechanism solutions of earthquake No. 1 and No. 3 in Fig. 2.



第4図 中部地方北西部の地震活動,(2)北陸地方南部(1994年1月~6月)

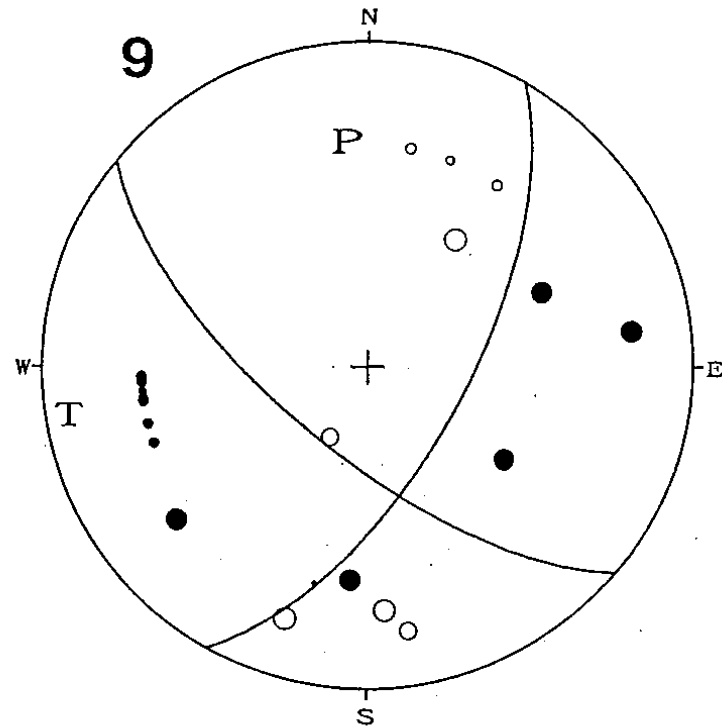
Fig. 4 Seismicity in the northwestern Chubu region, (2) southern Hokuriku region, during the period January-June, 1994.

1994 0522 2045 . 00
 35. 959 °N 135. 639 °E
 H=22. 7km M= 5. 0 .



A(A, D, S) 337 72 19 P(A, D) 109 00
 B(A, D, S) 241 72 161 T(A, D) 199 26
 N= 29 Score= 94% N(A, D) 18 64

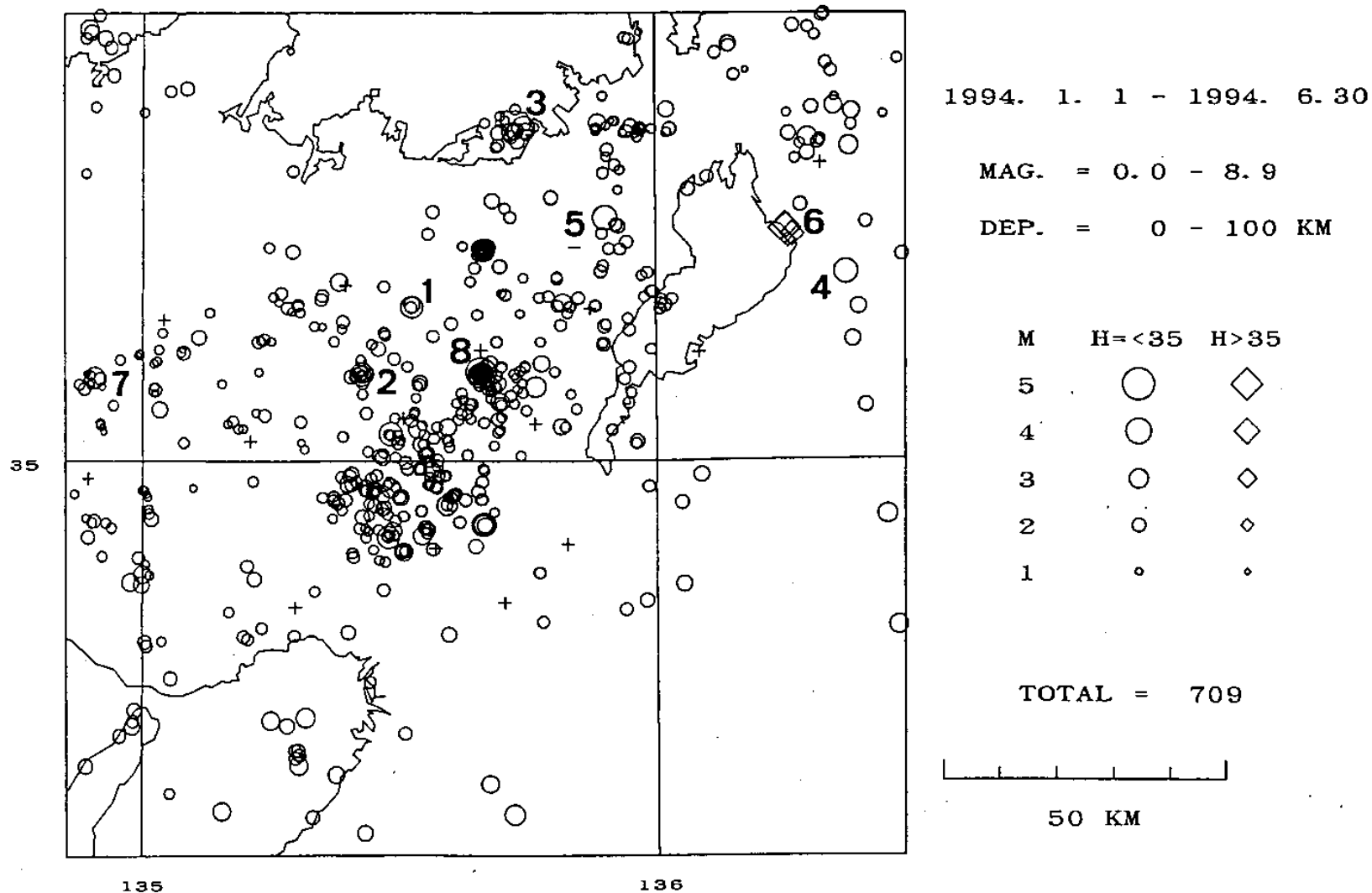
1994 0529 1332 . 00
 35. 378 °N 136. 254 °E
 H=37. 1km M= 3. 9



A(A, D, S) 29 65 336 P(A, D) 350 34
 B(A, D, S) 130 68 27 T(A, D) 259 02
 N= 21 Score= 94% N(A, D) 166 56

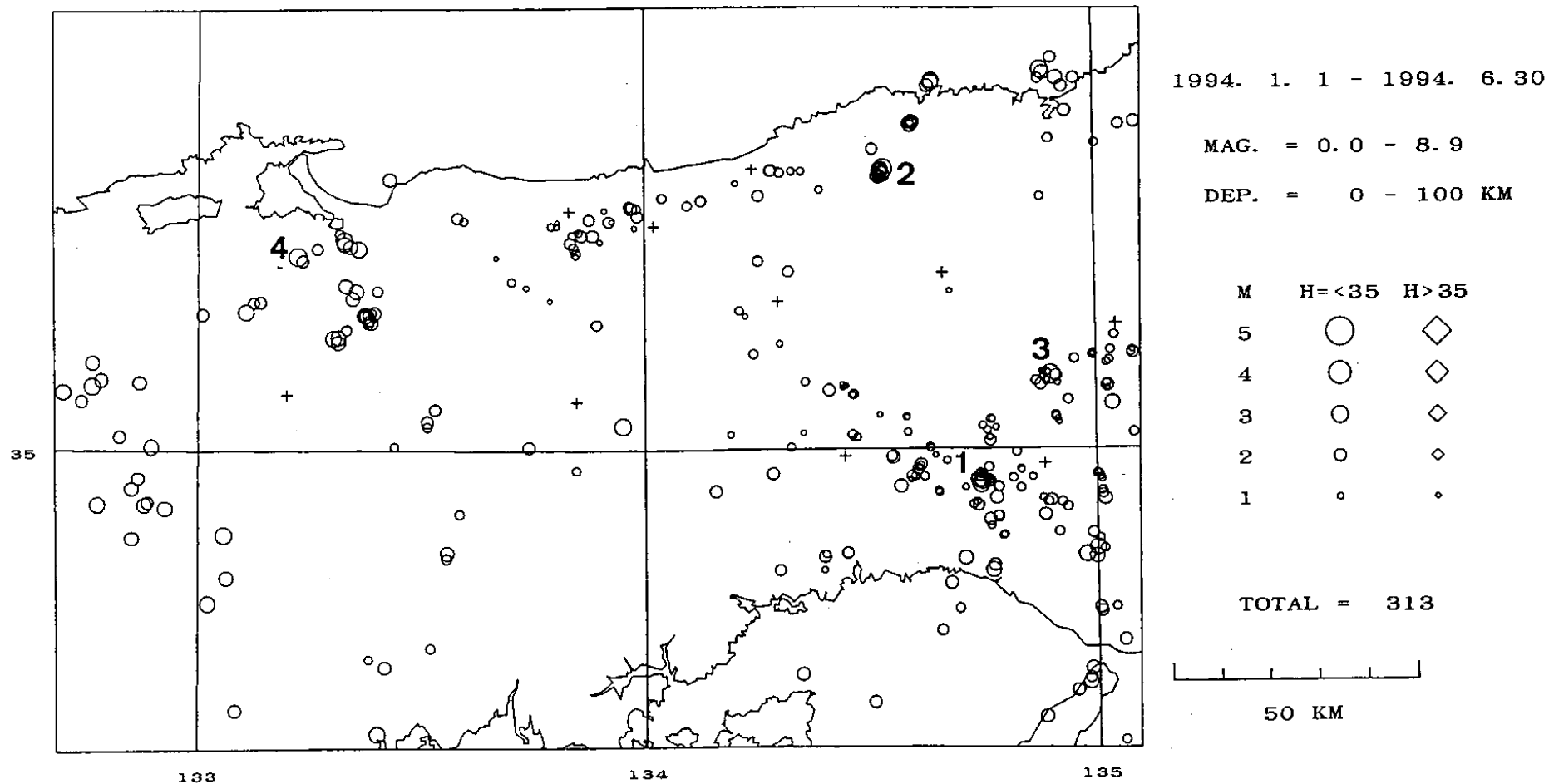
第5図 第4図の8および9の地震のメカニズム解

Fig. 5 Focal mechanism solutions of earthquake No. 8 and No. 9 in Fig. 4.



第6図 近畿地方中北部の地震活動(1994年1月~6月)

Fig. 6 Seismicity in the central and northern Kinki region, during the period January-June, 1994.



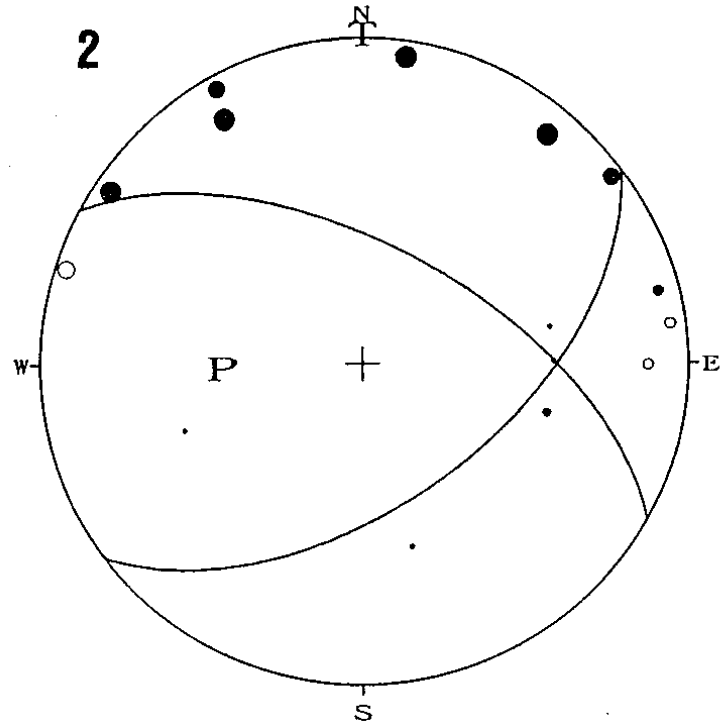
第7図 中国地方東部の地震活動(1994年1月~6月)

Fig. 7 Seismicity in the eastern Chugoku region, during the period January-June, 1994.

1994 0509 1602 . 00

35.514 °N 134.538 °E

H= 8.2km M= 3.5

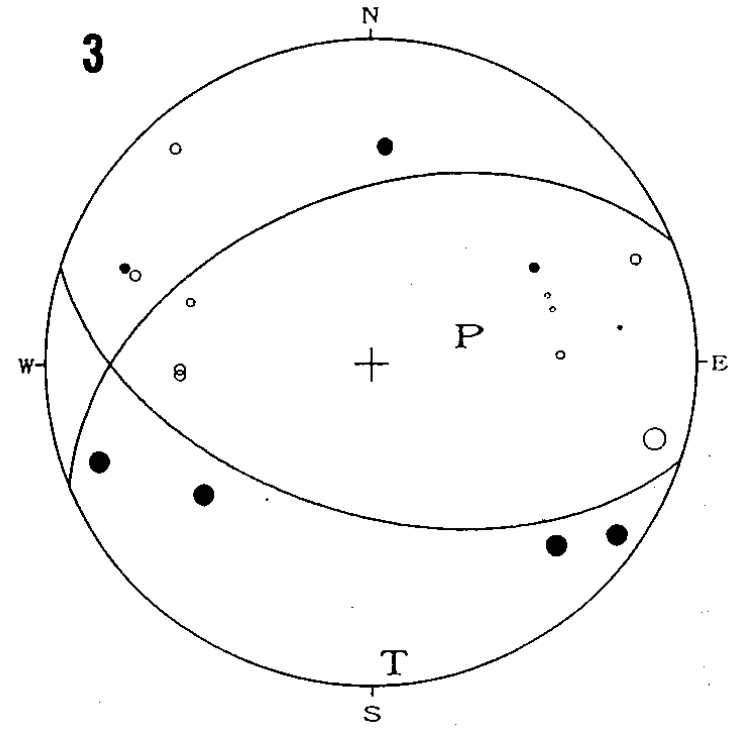


A(A, D, S)	299	60	318	P(A, D)	263	50
B(A, D, S)	53	54	218	T(A, D)	357	03
N= 15	Score= 84%		N(A, D)	90	40	

1994 0615 2047 . 00

35.134 °N 134.901 °E

H=12.6km M= 3.2



A(A, D, S)	108	52	297	P(A, D)	81	69
B(A, D, S)	248	46	240	T(A, D)	179	03
N= 18	Score= 81%		N(A, D)	270	21	

第8図 第4図の2および3の地震のメカニズム解

Fig. 8 Focal mechanism solutions of earthquake No. 2 and No. 3 in Fig. 7.